

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本



市制施行50周年を記念して「みらい懇談会提言書～夢と希望に満ちたこれからの守山」の一つに「読書日本一のまちづくり」が掲げられました。

図書館教育・文化振興課 ☎・☎(582)1142 ☎(581)2733
市立図書館 ☎・☎(583)1639 ☎(583)6949

質問 赤ちゃんや小さな子どもはどうやって本と出会うのかな？

答 おはなし会や絵本で本に親しんでもらっています



図書館おはなし会

まだ文字の読めない赤ちゃんや小さな子どもも、保護者や大人の声にリラックスして、目や耳で絵本を楽しむことができます。小さな子が本に出会う取り組みを紹介します。

★おすすめ赤ちゃん絵本リストの配布

図書館の絵本コーナーにおすすめリストを設置。

★としょかんわくわくボックス

市内の園などに絵本セットを貸し出し。

★おはなし会

図書館では毎週1回開催。出前おはなし会も実施しています。

図書館では、絵本の読み聞かせボランティアを養成する講座や研修会を実施しています。

佐川美術館
アートコラム⁴⁸

夏は涼しく

日本人は、古くから打ち水で暑い夏の日に涼を得てきました。しかし、この打ち水は夏の暑い日ばかりに行うものではありません。お茶事では、お客さまをお迎える準備が整った際、門前に打ち水をして支度の整ったことを知らせます。

さて、夏の茶席には、涼んでいただくための、いろいろな趣向があります。目で涼をとったり、音で涼んだり。茶道の大成者である千利休が、茶の湯のもてなしについて記した七つの心得「利休七則」の中にも、「夏は涼しく」という言葉があります。茶室の障子を藁戸に換えて夏支度をし、お湯が冷めやすいように口の広い平茶碗を用い、お客さまにも水面が見えるように平水指や、いかに涼しげなギヤマン(ガラス製の水指を用いるのは、いずれも目で涼んでいただけるようにとの心くばりです。

また、涼といえば「水」を連想しますが、茶道具にも多く使われている絵柄「青海波(あまなみ)海や川の波を文様化したもの」は「水」をイメージしているため、夏には涼しい印象を与えます。

現在、楽吉左衛門館で展覧中(9月5日(日)までの楽茶碗の中にも「水」を連想させる茶碗が多く見られます。

一つは「水国潤煙(すいこくじゆん)」「我行窮水處(わがゆききゆうすいぢよ)など銘に「水」が入っている茶碗。そしてもう一つは「篠舟(ささふね)」「風舟(かぜふね)をはじめとする航海シリーズ(舟形の茶碗)です。これらは銘と舟形の造形からも「水」を連想させます。まさに目と首で涼を感じていただける茶碗と言えます。

暑い夏の日には、美術館で涼みつつ、アートに触れてみてはいかがでしょうか。

学芸員 佐川美術館
松山 早紀子



※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800]でお問い合わせください。